

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No.9



犬と猿

Dog and Monkey

渡辺 正

千葉県立中央博物館



昨年12月に犬を入手した。10月生まれの雄犬で「レオ」という暴れん坊である。犬を飼いだめたのはそれなりの理由があったのである。

博物館では標本の材料として野生動物（鳥獣類）の死体を集めている。剥製標本や骨格標本を作るためだが、死体を発見したら連絡をもらい、すぐに車で出動する。死んだばかりのもの、時間がたって腐ったもの、車にひかれて骨の碎けてしまったものなどさまざまであるが、時々まだ息のあるものも入ってくる。

「ミチロウ」もその1人？である。昭和62年7月20日夕方天津小湊町から運ばれてきたニホンザルである。死体のはずの子ザルはまだ手のひらにのる大きさであったが頭部にひどい打撲を受けていた。血の気のひいた顔には青い内出血の跡が広がり、後頭部には大きなたんこぶがあった。ぐったりして動かず、反応も殆んどなく文字通り虫の息であった。

牛乳に砂糖を入れて温め、ストローの先につけて唇につけてやるとわずかずつではあったが反射的に飲んだ。

置いて帰るわけにもいかず家に連れ帰った。「ミチロウ」との生活の始まりである。彼の頭のケガはやはりひどく、頭蓋骨折であった。寝たきりの状態が続いたが、乳飲み子もやがてバナナを食べるようになり寝返りを打つようになった。頭のコブもひいてきれいな顔にはなったが半身にマヒがあり起き上がることはしばらく出来なかったが9月の初旬に突然動くようになり歩き出した。歩くようになるとカバンの中におとなしくおさまっておらず、博物館準備室に毎日連れていけなくなった。昼間の世話は家族に頼むより他なく家族の一員としての生活が始まった。部屋の中をサルが跳び回る奇妙な生活であった。人間社会の中でずっと飼いつけるのもサルにとっては迷惑なことであるので、山中のサルの群れにもどす試みは2度行われたが失敗に終わった。結局「ミチロウ」は群馬県の草津熱帯園に引き取られた。彼は改名して「ミッチー」と呼ばれている。

我家にはこのような野生動物がいつも何かいるが、どれも必ず帰ってってしまう。いなくなると世話をする手間が省けてホッとする反面、しばらくの間寂しい気もする。家族にそんな思いばかりをさせてもいけないので「レオ」を定住する家族の一員に加えたのである。

目次

表紙・グレビーシマウマ…… 1

どうぶつと私(5)…………… 2
「犬と猿」

グラビア
オランウータン…………… 3

特別展
「千葉の野生動物」…………… 4

動物公園
写真コンクール入賞作品…………… 5

飼育レポート
オウギアイサの繁殖について…………… 6

動物公園の動物⑤…………… 7
動物公園の施設⑤

動物公園日誌から…………… 8

飼育よもやま話…………… 10

健康管理センターから…………… 11
平成元年度行事予定

表紙の動物説明

グレビーシマウマ

シマウマは3種類に分けられますがその中でグレビーシマウマは最も大きく、またシマ模様が細かく、たいへん美しいシマウマです。アフリカ東部の草原や乾燥したやぶ地に住み、草や木の葉を食べます。オスはなわばりをつくり、その中で数頭～十数頭のメスと子どもの群れで暮らしています。エチオピア皇帝からフランスのグレビー大統領に贈られたことからこの名前が付けられました。

動物飼育数

(平成元年1月31日現在)

哺乳類	83種	438点
鳥類	100種	364点
爬虫類	4種	22点
両生類	2種	3点
魚類	1種	2点
総計	190種	829点

オランウータン

Orang-utan

哺乳綱 霊長目 ショウジョウ科



左がラーマン、右がキャンディ

シンガポール動物園から来園以来一人暮らしをしていました『ラーマン』にやっとお嫁さんが見付かりました。オランウータンはボルネオ島とスマトラ島にのみ住んでおりますが、どちらの島も開発によって住家であるジャングルが消え、絶滅の危機にあります。動物公園ではただ展示するだけではなく種の保存のためにも『ラーマン』のためにお嫁さんを探していたのです。

(宗近 功 Isao Munechika)

千葉の野生動物

Wild Animals in Chiba

●はじめに

テレビなどで野生動物がよく紹介され、また千葉市動物公園でも約190種類の動物を飼育展示しています。しかし、その多くは遠い外国にすむ動物たちで、身近にすむ野生動物の紹介は少ないようです。そこで千葉県にすむ野生動物をテーマにした特別展を動物公園内の動物科学館で開催することになりました。その内容を簡単にご紹介いたします。

●千葉県の自然環境

千葉県は総面積5,150km²で、周囲を太平洋、東京湾、江戸川、利根川に囲まれています。全体に平たんで、県南部は200～300mの丘陵が連なっています。主な植生はモミ・ツガ林・シイ・カシなどの照葉樹林、コナラを主とする落葉広葉樹林です。また、干潟や湿地、沼も多くみられます。それらの自然環境に多くの動物たちが生息しています。

●千葉県にすむ哺乳類

23種の野生の哺乳類のほか、太平洋沿岸の海にはツチクジラが回遊してきます。タヌキ、アナグマ、ニホンリス、ノウサギは県内に広く分布していますが、ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ、キツネは県南部にしかすんでいません。イノシシ、キツネの生息数は少ないです。

ニホンザル
ニホンノウサギ
ニホンリス
アカネズミ
ヒメネズミ
カヤネズミ
ハタネズミ
テン
イタチ
アナグマ
タヌキ
キツネ
ニホンジカ

イノシシ
トガリネズミ
ジネズミ
アズマモグラ
ヒミズ
アブラコウモリ
モモジロコウモリ
ユビナガコウモリ
キタガシラコウモリ
コキタガシラコウモリ
ツチクジラ
※太平洋沿岸の海



ニホンザル ● 1

●千葉県にすむ野鳥たち

県内で繁殖する野鳥は71種が知られています。県民鳥のホオジロ、国鳥のニホンキジ、埼玉県では国の天然記念物に指定されているシラコバト、特殊鳥類として保護されているオオセッカなどです。また、干潟や湿地などには四季それぞれにいろいろな鳥たちがやってきました。シギ・チドリ・なかま、ガン・カモのなかまなどです。

カイツブリ
カルガモ
オカヨシガモ
コアシサシ
ヨシゴイ
ゴイサギ
アマサギ

コサギ
チュウサギ
ダイサギ
クロサギ
バン
オオバン
ヒクイナ

コチドリ
シロチドリ
イソシギ
タマシギ
セイタカシギ
ハチクマ
トビ

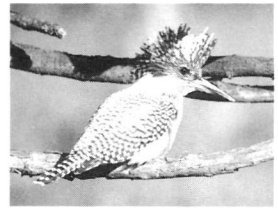
サンバ
フクロウ
アオバズク
コジュケイ
ニホンキジ
ヤマドリ
キジバト

シラコバト
カウコウ
ツツドリ
ホトトギス
ヨタカ
ヒメアマツバメ
ヤマセミ
カワセミ
コゲラ
ヒバリ
イワツバメ
コンアカツバメ
ツバメ
キセキレイ
ハクセキレイ
セグロセキレイ
ヒヨドリ
モズ

イソヒヨドリ
トラツグミ
ウグイス
ヤブサメ
オオセッカ
セッカ
オオヨシキリ
コヨシキリ
セイタイムクイ
サシコウチョウ
オオルリ
シジュウカラ
ヤマガラ
エナガ
メジロ
ホオジロ
ホオアカ
コジュリシ

カワラヒワ
スズメ
ムクドリ
カケス

オナガ
ハシボソガラス
ハシブトガラス



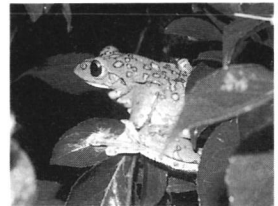
ヤマセミ ● 1

●千葉県にすむ両生類

千葉県には両生類ではトウキョウサンショウウオ、ニホンイモリ、カエル11種が分布しています。カエルは本州にすむ半数の種がすんでいます。身近にいるアマガエル、ヒキガエル、牛のような声で鳴くウシガエル、県南部にすむ美しい鳴き声で鳴くカジカガエル、県の天然記念物に指定されているモリアオガエルなどがよく知られています。

トウキョウサンショウウオ
ニホンイモリ
アズマヒキガエル
ニホンアマガエル
ニホンアカガエル
ヤマアカガエル
タゴガエル

トウキョウダルマガエル
ウシガエル
ツチガエル
シニエールアオガエル
モリアオガエル
カジカガエル



モリアオガエル ● 2

●千葉県にすむハ虫類

ハ虫類はニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリ、カメが3種、ヘビが7種分布しており、本州にすむハ虫類のほとんどがすんでいます。また、太平洋沿岸の砂浜にはアカウミガメが産卵のために少数が上陸してきます。

アカウミガメ
クサガメ
ニホンイシガメ
ニホンシシホシ
ニホンヤモリ
ニホントカゲ
ニホンカナヘビ

シマヘビ
ジムグリ
アオダイショウ
シロマダラ
ヒバカリ
ヤマカガシ
ニホンマムシ



ヤマカガシ ● 1

※産卵のために海岸に上陸

●まとめ

以上述べたように、千葉県では哺乳類、鳥類、両生類、ハ虫類計約120種が繁殖しています。干潟などによって渡り鳥は100種をこえます。また、この他にも千葉県には昆虫・魚・貝・カニなど多くの動物たちが暮らしています。それらの動物たちは皆さんが見ようとすれば、近くの公園や自然公園、沼、干潟などで見ることができます。しかし、彼らにも生活があります。邪魔しないようにそっとのぞいてみましょう。

今ある自然環境の中で、野生動物たちがいつまでも暮らしていけるようにしていかなくてはなりません。

写真提供 ● 1 亀田龍吉氏 ● 2 前田恵男氏

動物公園写真コンクール入賞作品

PHOTO CONTEST

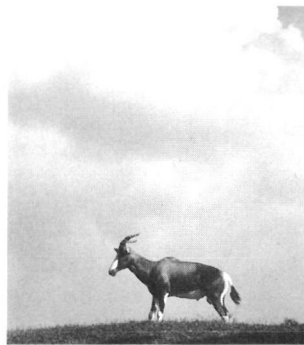
動物公園写真コンクールが、園内の動物や植物とのふれあいをテーマに、昭和63年8月1日～10月10日まで実施されました。

今回は、毎年参加してくれている常連の人達を含め250点もの参加があり、動物・自然写真家 吉野信氏の審査により、下記の作品が選出されました。



金 賞

大高 欣花
「ヤー・コンニチワ」



銀 賞

行川 三生
「大草原」



特別賞 川瀬進三「うさぎちゃんおいで」



銀賞

内山政治
「あくび」



銅賞 土屋進「ファミリー」



銅賞 菅野哲夫「仲よし」



銅賞 西藤和夫「野山」

コンテストに応募する作品の質は、年々向上するように思われますが、まだまだ、何を写したのか、目的のはっきりしない（狙いのはっきりしない）写真も少なくありません。

賞に入った作品は、それぞれに狙いをしっかりと持って写しています。柵や檻といった規制の多い動物園園内においても、不要な物を画面から省き、必要な分だけをフレーミングするという写真の基本的な原則を守っている為に、自分の意志が一枚の写真に、はっきりと写されているのです。

それが、写真を審査するという立場から見ても、力強くうたえてきますし、読者の皆さまから見ても、「いい写真」だなあと、感じられると思います。

動物・自然写真家 吉野 信 (Shin Yoshino)

オウギアイサの繁殖について Breeding the Hooded Merganser

●はじめに

オウギアイサは、ガンカモ科に属し、オスは求愛行動のときに美しい扇状の羽冠を開閉するのが特徴で、北アメリカの北部の森林にある沼地・湖あるいは河の土手のいろいろな高さの樹洞などで繁殖します。

当動物公園では、1985年2月19日にオス2羽、メス1羽、2月28日にオス1羽（すべて幼鳥）をヨーロッパ（オランダで繁殖した個体）から入手しました。

本種は、日本では飼育例が少なく、繁殖例もなかったのですが、本園で1987年5月に初めて繁殖に成功しました。その飼育・繁殖経過について報告します。

●飼育環境

放飼場は、全体面積は、87.7㎡で水面部分37.2㎡、陸地部分50.5㎡です。水面部分の深さは1～1.3mで、当園では、オウギアイサ、ホシハジロ、アメリカカビバーの混合飼育をおこなっています。来園した1985年の11月19日に冠羽を立て喉をふくらまし、くちばしをカタカタとならし、声はだしませんでした。求愛行動をおこなったので1986年に巣箱を1個設置し、さらに1987年2月中旬に1個追加しました。

●繁殖するまでの親鳥の給餌量（2羽分）

四季によって調整していますが、午前と午後、1回づつキャットフード75g、フラミンゴペレット75g、金魚（25～40mm）20匹を与えました。

●抱卵までの飼育経過（1986年6月～1987年）

1986年9月中旬に換羽が始まり、10月下旬に換羽が終了したのち10月28日に同年初めての求愛行動を確認しました。それから翌年の3月下旬まで求愛行動がおこなわれる姿が見られました。1月上旬になるとオスどうしの闘争がありました。3月6日にオス3羽がメス45（オス・メスの後の数字は個体識別番号）を追いかけ回し、同時に交尾しようとしたのですが、交尾にまで至ったかどうかは確認できませんでした。その日2羽のオス42、44を放飼場からはずし、オス43だけを残しました。4月6日に初卵を確認してから4月17日までに合計7個産卵しました。しかし、交尾は4月8日にしか確認できず、オス43とメス45の間に見られました。

●抱卵からふ化

単箱は、柔らかい羽毛が卵を囲んでいて、さらにその回りを乾草が囲んでおり、親鳥が巣箱の外に出るときには、羽毛が卵の上にかぶさっているときとない



ときがありました。

抱卵開始から2週間は、外にあまり出ずほとんど巣箱の中に入っていることが多くそれを過ぎて11日間は1日に2～3度巣箱の外に出たようでした。その後の4日間は、外にあまり出ないようでした。ふ化の2～3日前になると巣箱からまた出るようになり、卵は7個ともふ化しました。抱卵日数は32～33日間でした。

●育雛

(1)採食

ヒナの採食行動については、2日目でいろいろな餌を与えたが、コオロギを好んで採食しました。3日目には、池の水面を飛んでいる虫を捕える姿が見られました。4日目には、ペレット類を少しついでに採食するようになりました。5日目には、ヒナ達がバットに入っている餌を採食するようになり、16日目には、ペレット類もよく採食するようになり、23日目には、与えるペレット類は、ほとんど採食するようになりました。

1日目～30日目における親2羽とヒナ7羽に与えた餌は、最初はキャットフード、フラミンゴペレット、ドッグフード、コオロギ、金魚です。10日目位からはオキアミ、コイ（細切）を与えました。給餌時刻は原則として、午前8時、9時、10時、午後3時、4時に分けて行ないました。

(2)その他の行動

2日目午前8時に、巣箱からメス親とヒナ7羽が出てきました。メス親が、ヒナを連れて小池の方で泳ぎ出しました。メス親は、ヒナに潜水する姿を見せるかのように、何度も繰返していました。午前11時にはヒナ全羽が、水中に潜る姿が見られるようになり、中でも1羽は池の底（100～120cm）まで潜る姿を見せました。ヒナは、メス親と一緒に互いにまとまって泳いでいました。4日目の雨で強風の時メス親は、ヒナを羽でおおうようにして、雨・風から守っていました。

●まとめ

今回初めて、オウギアイサの自然繁殖に接することができ、観察を通して繁殖に伴ういくつかの資料を得ることができました。次回の繁殖では、さらに詳しい観察を行ないたいと思います。

（石井 信一 Shinichi Ishii）

動物公園の動物⑤

Animals in the Chiba Zoological Park

～セーブルアンテロープ～

Sable Antelope

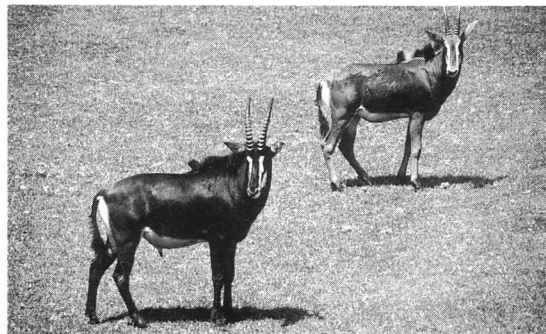
ケニヤ南東部から南アフリカ北東部までの森林や、まだらな林などに生息し、草や木の葉を食べています。

メスと子供たちは、10～20頭ぐらいの小さな群れで広い範囲を移動しながら生活しています。オスは交尾期になわばりを作ります。オトナになると体の長さ2.0～2.1m、体重200～260kg、肩の高さ1.2～1.4mで、レイヨウの仲間では比較的大きな方だといえます。足はきゃしゃな感じですが、長い距離を時速55km位の速さで走ることができるといわれています。被毛の色は、セーブルという語がシベリアに住むクロテンの毛色をあらわすように、顔・腹部・尻の一部を除いて全体的に光沢のある黒色または黒褐色をしています。

オス、メスともにある角は、目のすぐ上の前額部から前に出るように生えて、後方の湾曲したサーベル状になっており節があります。オスでは1mを超えることもあり、闘争の時には前足をおりまげ頭を下げた独特なポーズで、角をつき合わせて相手を押したり、刺そうとします。

妊娠期間は260～280日で、生まれた子供は赤褐色で親と同じ被色になるのには3年かかります。

鳴き声は、警戒すると鼻をならして「ブー」という大きな音をたてます。また仲間どうしの交信でしょう



か「シー」という高音を発することもあります。

動物公園では、草原ゾーンの一隅にアミメキリン、ハートマンヤマシマウマ、そして3種類の鳥たちと一緒に、オスのパズーとメスのシーラの2頭を展示しています。

彼らはいつも一緒に行動し、好奇心が強いせいか草原ゾーンのトラブルメーカーで、のんびり坐って休んでいるアミメキリンの足を角でひっかけ追いはらったり、ハートマンヤマシマウマの尻を角で刺したり、鳥たちをしつこく追いかけてまわして遊んでいます。遊びにあきると彼らはお気に入りの場所で、仲良く坐ってウシ科の仲間らしく、口をモグモグと一度食べた草を反すうしながら、のんびりと日なたぼっこをして過ごします。

一日も早く、パズーとシーラに見守られながら歩く子供の姿を見たいものです。（佐藤 幹雄 Mikio Sato）

動物公園の施設⑤

Facilities of the Chiba Zoological Park

～動物科学館バードホール～

Bird Hall

動物科学館のホールのつきあたりにある、スコールと雷のトンネルを抜けると、そこは常夏の楽園、バードホールです。

バードホールは高さ15m、半円柱形の大きな温室です。冬は暖かくて夏は涼しく、シダやヤシ、ガジュマルなどの熱帯植物がうっそうと茂っています。そして毎日時間になると、スコールも降るのです。熱帯の鳥たちは、この恵まれた環境の中をのびのびと飛び回っています。

バードホールにすんでいる、代表的な鳥達の紹介をします。

バードホールでまずみなさんの目にとまるのは、くすんだ青色をした世界最大のハト、カンムリバトでしょう。頭にうちわのような羽飾りをたてて、2,3羽連れだってゆうゆうと歩く姿がご覧になれます。「ボンボン」という低い鳴き声は、バードホールをゆさぶらんに響き渡り、その時はほんとうに熱帯雨林にいるような気分にさせてくれます。バードホールのシンボルマークにもなっているオオオオハシは、強いキャラクターの持ち主です。体長の4/5程もある巨大な口ば



しと、赤黒黄白の派手な色あいは、まさにトロピカルバードの代表です。鮮やかなオレンジ色で、頭にちょんまげを乗つけたイワドリも目立つ存在です。観客通路まで飛んで来こともあり、「ギャーギャー」騒いで迎えてくれるかもしれません。

この3種がバードホールのひときわ目立つ鳥ですがほかにもいろいろな鳥たちが、葉の陰に、地面に、天井近くの柱に隠れています。黄緑色のコノハドリ、鮮やかな青のルリコノハドリ、お馴染みのキュウカンチョウ、白地にノドだけ青いハゲノドスズドリ、紫色の体に黄色い額を持つニシムラサキエボシドリなど、全部で18種37羽の鳥が居るのです。

ちょっと見つけにくいですが、じっくりとご覧になっていただきます。あなたは何種何羽の鳥を見つることができるでしょう。（横山 浩 Hiroshi Yokoyama）

動物公園日誌から

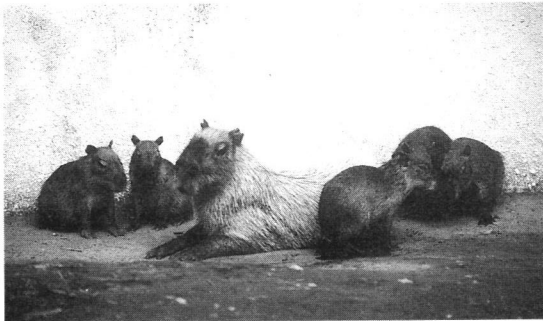
From Zoological Park Diary

’88年 8 月 1 日～89年 1 月31日



左がジャック(雄)、右がキャンディ(雌)

- 8 月 2 日 オランウータン (雄、雌各 1 頭) 多摩動物公園より借り入れ
- 8 月 3 日 ジェンツーペンギン換羽始まる
- 〃 ウマ (雑種) 長野県須坂動物園に寄贈
- 8 月 4 日 博物館実習生受入れ (2 名)
- 8 月 5 日 アメリカアカリス死亡



カピバラの親子

- 8 月 8 日 カピバラ繁殖 (5 頭)
- 〃 飼育研究会「オオカンガルーの人工哺育」
- 8 月 10 日 ミカドキジ新着
- 〃 シロガオオマキザル、ハイイロコクジャク死亡
- 8 月 12 日 クロミミマーモセット繁殖 (2 頭)
- 8 月 16 日 オオカンガルーの仔袋から顔を出す
- 8 月 19 日 保護中のアオバズク放鳥
- 〃 ピグミーマーモセット繁殖
- 8 月 21 日 クロヅル、オナガキジ死亡
- 8 月 23 日 ケープペンギン換羽始まる
- 8 月 28 日 ヨザル繁殖 (1 頭)
- 8 月 31 日 ヤギ (雄・雌各 1 頭) 袖ヶ浦福祉センターへ寄贈
- 〃 ハイイロヤケイ、セイロンヤケイ人工ふ化

- 9 月 1 日 ヒツジ (サフォーク、2 頭) 東京都井の頭自然文化園に寄贈
- 9 月 4 日 アオボウシインコ (1 羽) 受贈
- 9 月 5 日 ココノオビアルマジロ死亡
- 9 月 6 日 動物愛護週間特別展示「アラスカの野生動物」開催 (～28 日)
- 9 月 7 日 チンチラ繁殖 (1 頭)
- 9 月 13 日 ルーセットフルーツコウモリ死亡
- 〃 ミニブタ繁殖 (2 頭)
- 9 月 15 日 「動物公園お年寄りのつどい」開催
- 9 月 17 日 ミニブタ繁殖 (8 頭)
- 9 月 19 日 新採職場体験研修 (保母 18 名、～22 日)
- 〃 飼育研究会「アジアゾウの幼獣と飼育」と「イワドリの自然繁殖」
- 9 月 23 日 動物愛護週間特別講演と映画会開催
- 9 月 27 日 飼育技術者関東・東北ブロック会議に飼育職員 2 名出席 (於・横浜市野毛山動物園)
- 9 月 29 日 クロミミマーモセット死亡
- 10 月 1 日 特別展「千葉の野生動物」開催

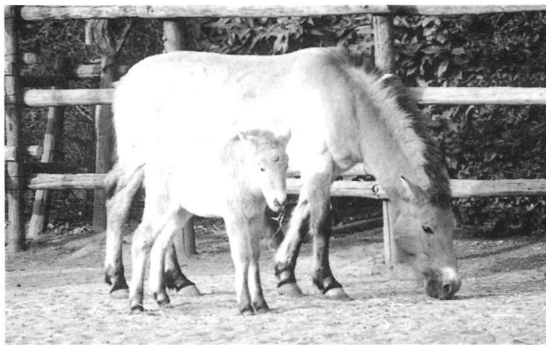


ミーアキャットの親子

- 10 月 1 日 ミーアキャットの仔巣穴から出てくる
- 〃 ビグミーマーモセット (雄の仔同士) を行川アイランドと交換
- 10 月 2 日 セイロンヤケイ人工ふ化
- 〃 チンチラ繁殖
- 10 月 3 日 飼育研究会「当園における保護動物について」
- 10 月 7 日 トナカイ (雄) 新着
- 10 月 13 日 コモンマーモセット繁殖 (2 頭)
- 〃 ブラッザゲノン繁殖 (1 頭)
- 〃 オナガキジ死亡
- 10 月 16 日 「親子の自然と遊ぶ教室」開催
- 10 月 22 日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催 (アジアゾウ)
- 10 月 24 日 秋のニューカッスル予防接種
- 10 月 30 日 アカコンゴウインコふ化 (2 羽)
- 〃 セイロンヤケイ死亡
- 11 月 1 日 「動物公園写真コンクール入選作品展」 (～30 日)
- 11 月 6 日 「秋のズークイズラリー」開催
- 11 月 7 日 モウコノウマ (1987 年生れ) 馬事公苑に寄

贈

- 11月7日 飼育研究会「セスジクスクスの飼育」と「子ども動物園における教育プログラム」
11月8日 ミニブタ（2頭）おびひろ動物園に寄贈
11月9日 パタスザル死亡
〃 オセロット繁殖
11月13日 「動物公園写真コンクール」授賞式と講演会開催（講師・吉野信）
11月14日 シロエリオオヅル死亡
〃 エジプトハゲワシ（2羽）新着
11月16日 チリーフラミンゴ、ミカドキジ、カンムリバト、スローロリス、クロミミマーモセット動物交換で新着
〃 飼育技術者全国大会に飼育職員2名出席（於・静岡市立日本平動物園、～18日）
11月19日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（アミメキリン）
11月22日 コウライウグイス死亡
11月25日 ハートマンヤマシマウマ死亡
11月26日 ヨーロッパバイソン、ショウガラゴ、フサオマキザル、シロガオオマキザル、リスザル、ニホンザル、マントヒヒ、パタスザル、オグロプレーリードッグ、チンチラ、オセロット、ミニブタ、ヤギ、フタコブラクダ動物交換で搬出
11月28日 飼育係研修会「アメリカの動物園のめざすもの」(講師・上野動物園 成島悦雄)
12月4日 「動物公園クリスマスのつどい」開催
12月7日 第28回動物園水族館教育研究会に飼育職員2名出席（於・上野動物園）



モウコノウマの親子

- 12月10日 モウコノウマ繁殖（1頭）
12月12日 飼育研究会「アメリカの動物園視察報告」
12月13日 クロヅル死亡
12月18日 パタスザル、セキショクヤケイ死亡
12月19日 草原ゾーン放飼場改善のため木柵工事始まる
12月21日 イワドリ死亡
12月22日 グレビーシマウマ繁殖（1頭）



グレビーシマウマの親子

- 12月23日 ミニブタ繁殖（3頭）
12月24日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（トナカイ）
〃 ヒツジ（サフォーク）に人工授精
12月25日 ショウガラゴ繁殖（1頭）
12月28日 オオオオハシ死亡
〃 タヌキ保護
12月29日 オオカンガルー死亡
12月30日 ココノオビアルマジロ死亡
1月1日 ハクセキレイ保護（環境庁リング付）
1月4日 新春特別展示「へび」開催（～31日）
1月7日 スローロリス（2頭）緊急保護（通産省より）
1月9日 飼育研究会「エリマキキツネザルの繁殖について」
1月11日 チンチラ、イワドリ死亡
1月12日 アカカンガルー、パタスザル死亡
1月16日 「動物公園バードウォッチング」開催
1月18日 レッサーパンダ（雄）死亡



ハワイガンの仔

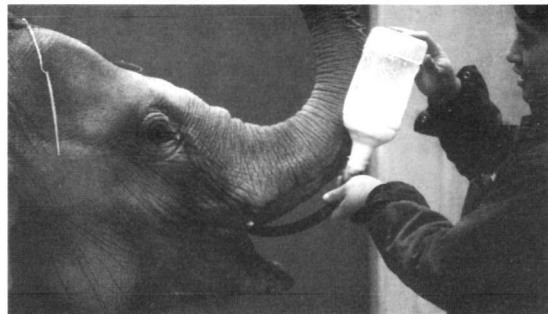
- 1月21日 ハワイガン人工ふ化（1羽）
1月28日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（アカカンガルー）
1月30日 トナカイ（雄）右角落角
1月31日 カンムリバト死亡

ゾウのミルク

Bottle-feeding an Elephant

動物公園も二次開園をして1年がたち新しく仲間になったゾウのスラタラとアイは元気に放飼場せましと遊びまわっています。この2頭は人間でいうと子供位で、小さい方が雄のスラタラ（推定年齢約4才）、大きい方が雌のアイ（推定年齢約6才）です。ところでスラタラは、まだ小さくて、ミルクを与えているので、その哺乳の様子について話をします。

スラタラは、1987年8月23日にスリランカのゾウの孤児院（母親とはぐれたり、母親が死んでしまった子ゾウを育てる施設）から来ました。来園した時は約2才半でした。その頃の大きさは肩の高さが126cmでわきの下に入る位でした。最初、哺乳は1日4回で、ミルクはバケツに450gの人間用の粉ミルクを入れお湯5kgを加えよくかきまぜ、それをウィスキーびんに入れビタミン剤を加え、先を削ったホースの乳首を付け与えました。スラタラはミルクが大好きです。ミルクの入ったバケツを持って寝室に入ると、うろうろ動き回っていたのをぴたりと止め、バケツの方をじっと見ています。用意している間も止まってじっと見て鼻でわらや竹をいじくり待ってます。ミルクを入れたウィスキーびんを持って人が立ち上がると「待てました。」といわんばかりに、鼻を高々と上げ歩み寄ってホースを



くわえいっきに飲んでしまい、次のを同じ様にわらえいじくりながら待っています。そんなに好きなミルクですが離乳期（4才位）が近くなってきたので、ミルクを減らしていきました。1988年1月17日から3回、4月4日から2回、10月1日から1回にと徐々に哺乳回数を減らしていき、青草やベレット、さつまいも、人参などを増やして与えました。そして今年の4月頃には離乳させたいと思っています。

現在2頭共順調に大きくなっています。1年でスラタラで約20cm、アイで16cm位肩の高さが高くなりアイは人よりも高くなりました。これから、まだまだ大きくなるのでその成長ぶりをみなさん見守っていて下さい。

（濱田 昌平 Masahira Hamada）

フラミンゴの不思議

The wonder of The Flamings

草原ゾーンの一角にフラミンゴ池があり、そこで36羽のフラミンゴ達が生活しています。

フラミンゴは、群れで暮らす鳥です。群れの中の1羽が翼をばたつかせ、かけ出すと、他のものもつられて一斉に池の中をとことろ狭しとばかりに走り回ります。また、頭を水にさし込んで食べるまねをしたり、同じ方向に歩き出したりする事もよく見られます。新しい仲間を加えてもじきになじんでしまいます。

フラミンゴの脚は、細く長く、水辺や浅瀬の生活に適応した体形をもっています。その細く長い脚が、人間とは逆に曲っている、という声を耳にした事があります。鳥類の場合、ひざだと思っている所は実はかかとで、曲がる部分は、人間の足首にあたるのです。ひざは、体の中に入っていて見えません。つまり、足の指で立っている事になるのです。爪先からかかとまでが長いから余計逆に曲っているように見えるのですね。

フラミンゴ達は、片足で立って眠るのが得意です。首を背に埋めて昼寝を楽しむ姿がよく見られます。人間でしたら、片足はおろか両足でだって立って眠るのは至難のわざです。電車の中で立っていて眠くなった



時など、鳥になりたいと思ったりします。この片足立ちとは、しっかりした骨組み、体を斜めにする事による平衡感覚、そして重心が可能にしているようです。どうしてこの様な眠り方をするのでしょうか。1つは、皮膚の裸出部を少なくする事によって熱の放散を少なくする。また、鳥は常に自然界では弱い立場にあるので外敵が来た際、すぐ飛び立てる。そして、人間がゴロ寝をするのと同じようになりラックスできる体形である。などいろいろ考えられますが、今のところは、はっきりとは、わからないようです。

今、フラミンゴ池では、5～7月の繁殖期を前にして、つがい形成しようとする求愛行動がみられます。池をおとすれたら、フラミンゴの自慢の細くて長い脚に注目してあげて下さいね。

（諏佐 妙子 Taeko Susa）

健康管理センターから

From the Animal Health Center

カゼをひいたキリンさん

A Giraffe's cold

キリンは暖いアフリカの動物ですが、当園の3頭は日本生れの日本育ち、寒さには慣れているだろうと思っていたのですが、昨年の暮れに雌のヤエがカゼをひいてしまいました。

始めはおなかの調子を悪くしたのですが12月26日にはすっかり元気がなくなっていました。ブルブル震えており、しきりにくしゃみ（キリンもクシュンとします）をして鼻水が出ています。キリンの寝室には床暖房がありますが、天井までの高さが7mもあり、（背の高いキリンは5m以上になるのですから）部屋全体を暖めるのは容易ではありません。寝室は半地下構造で、人間の通路からキリンの顔を見たり、キリンにとってちょうど良い高さに餌をつけたりしやすいようにできています。この通路にとりあえずストーブを1台置いたところ、ヤエはあの長い首を伸ばしてきて、じっと顔だけストーブにあたっています。餌に薬を混ぜて与えたのですが28日には食欲もかなり落ちてしまいました。寝室は何枚ものビニールシートで囲ってストーブを3台たき、少し暖くなったのですがまだ震えています。熱でもあるのでしょうか。キリンは気に入らない人が近づくと後足でまわし蹴りをしたり、首で振り払おうとしたりしますので、熱を測ることはとてもできません。ききめが数日間持続する薬を麻酔銃で注射することになりました。からだが大きいので薬もたくさん必要です。3本も撃ち込まれてもわりと平気にしていました。けれども30日の午後にはすわりこんでし



まい、さわってもじっとしているようになってしまいました。餌もほとんど食べず、好物の木の葉だけをあの長い舌でちぎって少しずつ食べています。薬がきいていないようなので別の薬を注射することになりました。人間に使う時よりもうんと濃く溶かして量を少くして注射します。何とか元気をとり戻してほしいと願いながら打ちます。

翌31日、いつものように「おはよう、ヤエちゃん」とシートの中をのぞくと、ここ数日はいつもつらそうな顔をしてストーブの方を向いてじっと立っていたのが、この日は口をモグモグさせています。元気が出てきて餌も少し食べ出したようです。やれやれ薬がきいたようです。この日も注射をします。そして元旦。顔つきが良くなってきました。また注射をして、その後は餌に薬を混ぜてもらうことにしました。こうして日に日に元気を回復して、やっとまた外に出られるようになりました。

キリンさん、もうカゼひかないでね！

（米田久美子 Kumiko Yoneda）

平成元年度 行事予定

時 期	行 事 名	内 容
通年	動物映画会 ワンポイントウォッチング 特別展「家畜と人間」	動物について楽しく理解していただくため上映します。（日・祭日・春・夏休み中） 動物公園最新の話題とワンポイントガイドを実施します。 家畜と人間の生活をパネルで紹介します。
春	愛鳥週間記念行事 羊の毛刈りと紡毛教室 動物を計る会	愛鳥週間にちなんだ講演を行います。 羊の毛刈りの実演と紡ぎ方教室を行います。 計量の日にちなんで動物の重さなどのクイズを行います。
夏	サマースクール 動物愛護標語募集	飼育体験を通じ動物愛護精神を養うことを目的として行います。 動物愛護にちなんだ標語を募集します。
秋	敬老の日記念行事 クイズラリー 動物写真コンクール	敬老の日を記念し講演を行います。 園内の動物のクイズを行います。 園内の写真コンクールと入選作の展示を行います。
冬	新春特別展 バードウォッチング 動物ねんど教室	干支にちなんだ動物をパネルで紹介します。 園内の野鳥や飼育展示中の鳥の観察を行います。 紙ねんどで動物の作り方教室とコンテストを行い作品を展示します。

※詳しくは、各行事ごとに市政だよりなどでお知らせいたします。



ショウジョウトキ

- ▶開園時間 午前9：30～午後4：30（入園時間は午後4：00まで）
- ▶入園料 大人（高校生以上）500円 小人（小・中学生）100円 小学生未満無料
（団体） 有料人員30名以上は2割引き
入園料が免除になる方（窓口で手帳を提示して下さい）
千葉県在住の60歳以上の方で千葉県発行の身分証を持参の方
身体障害者手帳を持参の方及び一種の方の介添人1名
療育手帳及びこれに類する手帳持参の方とその介添人1名
- ▶休園日 月曜日（月曜が休日のときは翌日） 年末年始12月29日～1月3日
- ▶駐車料金 普通車500円 大型車2,000円（マイクロバス含む）